ASUKA COMICS DX
ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
3
MASAKI SANO &
佐野真砂輝&わたなべ京
KYO WATANABE

ASUKA COMICS DX

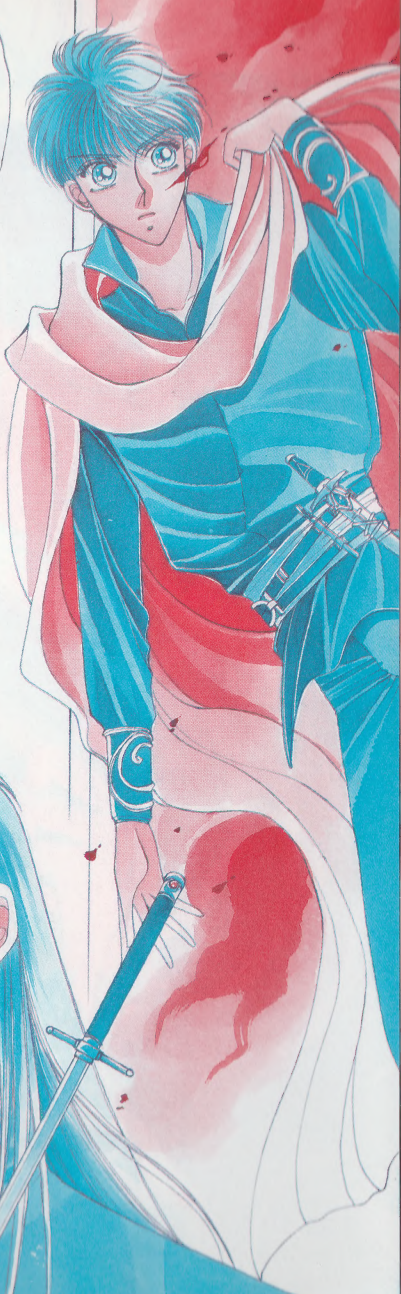
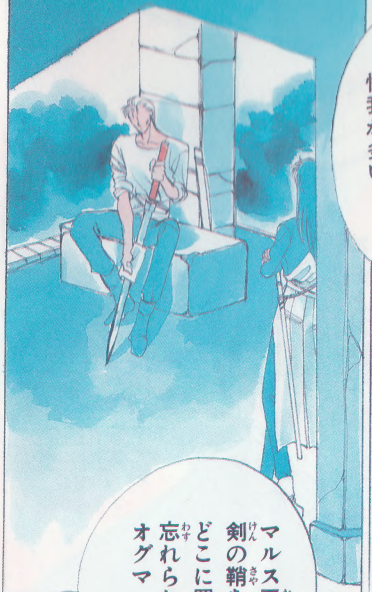
ファイアーエムブレム™

M A S A K I S A N O &
佐野真砂輝&わたなべ京
K Y O W A T A N A B E

C O N T E N T S

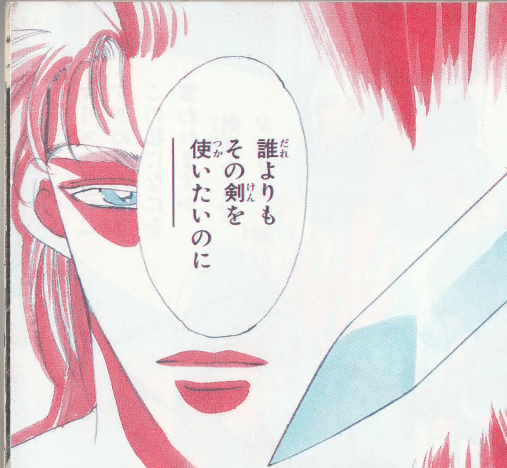
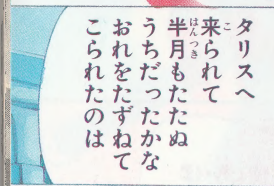
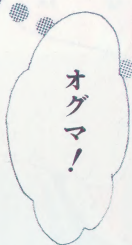
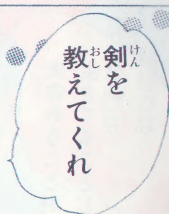
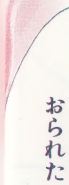
Design: EIICHI SUEZAWA

ファイアーエムブレム3
悠久の大地
アカネイア大陸
百年の眠りから
目覚めた
暗黒竜メディウスの
ドルーア帝国は
諸国を制し
聖アカネイア王国を
滅ぼし
怨敵
アリティア王国をも
消し去ったと
世界の誰もが
絶望の中で
思っていた
その
アリティアの王子
マルスが兵を挙げ
仲間を増やしつつ
反ドルーアの旗を
掲げ
大陸を往くまでは

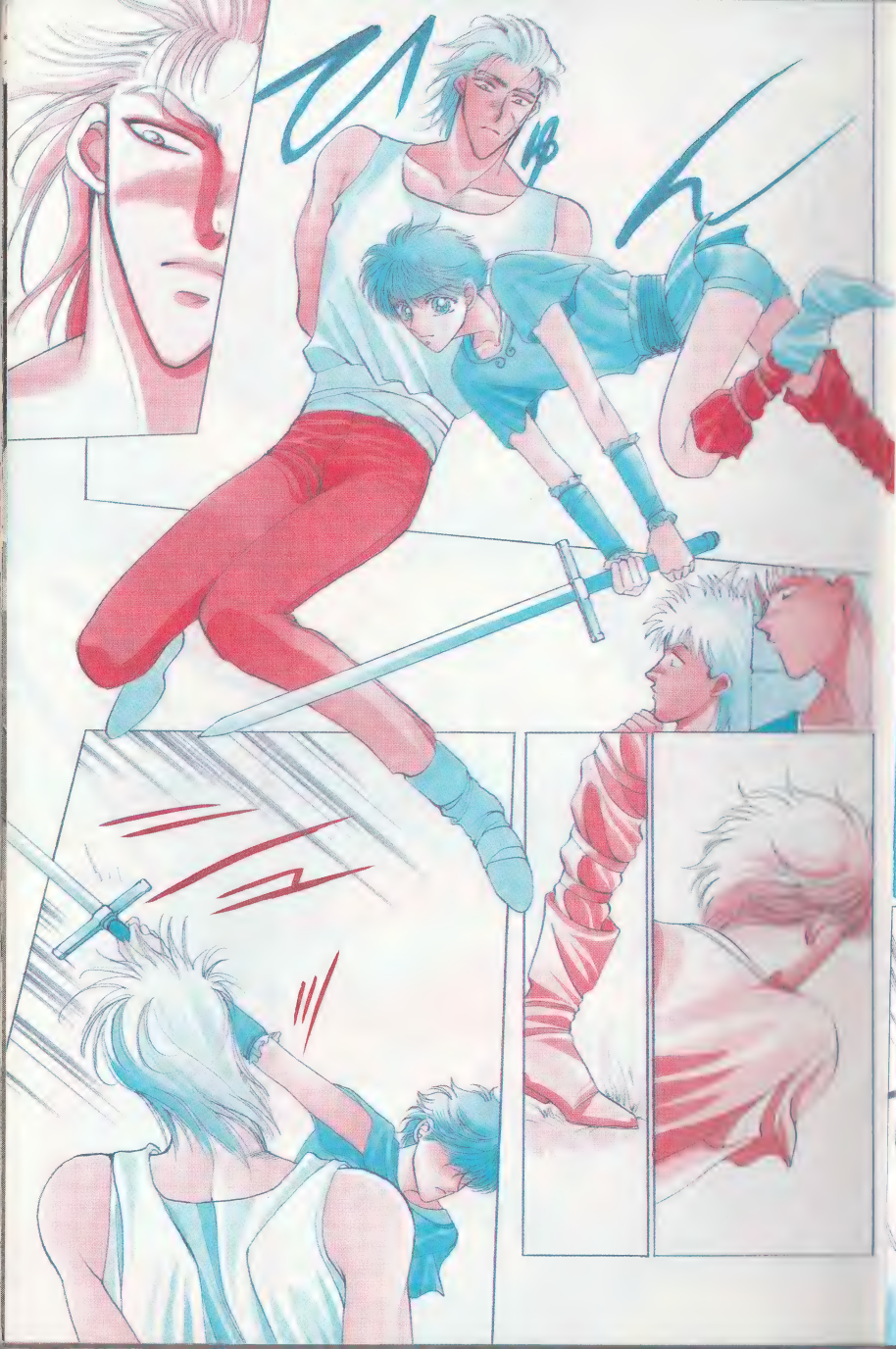
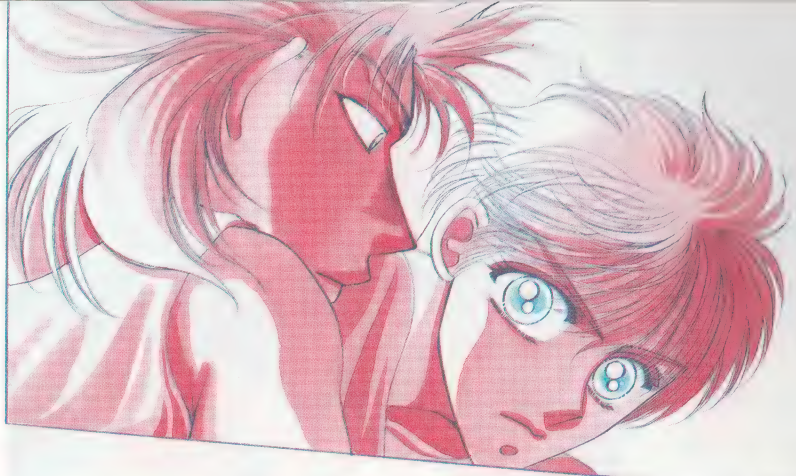
百年前
神剣でもって
地竜族の狂王
メディウスを
封じたアンリ
その血を継ぐ者
ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
特別編

神剣と神話を
継ぐ者

神話を継ぐ者にしては怪我が多い
マルス王子は剣の鞘をどこに置き忘れられた？オグマ
下手すればおれたち傭兵も色を失くさんばかりの戦いぶりだ

戦いぶりだ
そう在りたいと マルスさまが 望まれて いるんだよ ナバール
飾りたてられた 銘入りの剣でも 血にまみれねば 王子にとっては 剣ではない
変わった王子だ

アリティア城が落ち
我が国タリスへ向かわれる道中を再び襲われ
戦い慣れぬ騎士団と見知らぬ地夜の闇
あきらめと悲しみの声
その中で
かの王子は剣を握っておられた

ただその剣は王子にとっては少しばかり手に余られたのだ
誰よりもその剣を使いたいのに——
タリスへ来られて半月もたたぬうちだったかなおれをたずねてこられたのは
剣を教えてくれ
オグマ！
おられた

それはなに
オグマ
それで
剣の練習が
できるのか?
では王子の
その剣で
私を自由に
してくださいますか
ああ
真剣なのですから
お手を切らぬよう
行くぞっ
ダッ

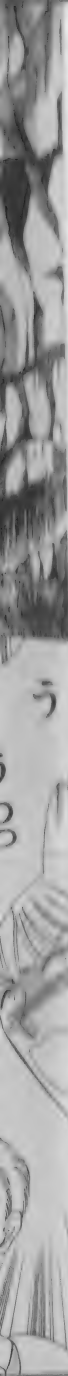
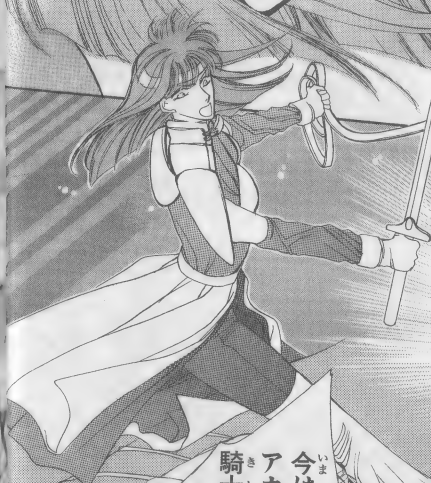
ひゅん

げっ
マルスさま
は
!

申し訳ございませんッ
思わず本気を…おのれの力の加減もできぬとは
げほ ごほ
どのような処分も
大丈夫だよオグマ
そんな必要ない そんなこと言わないで
本気になってくれてうれしいよ
やはり形だけの剣術は駄目だね まったくかなわないもの
形だけの力はいらない
血にまみれても生きながらえる

では
今いちどはじめから私も今度は油断致しません
うん
タリスの日々 旅立ちの予感
おれは忘れない 忘れられない
本気を出さずにはいられなかったあの瞳

あの手が
いずれ
星の輝きさえ
手に入れる
あの瞳
おれはただ
持ち方を
お教えしたに
すぎない
剣の使い方は
王子自身が
考えられた
ことだ
王子の剣の精は
王子の内に
あるんだ
生き残る
戦いぬく
生き残る
強くなりたい
強くなりたい
昨日よりも
今日よりも
明日よりも

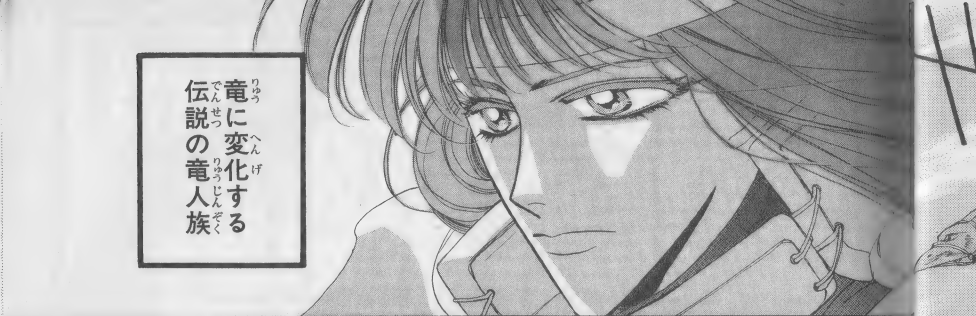
そうだな
抜きはらわれた剣は
必ずおさめられねば
ならない
戦いを
終わらせるために
彼のひとは　だから
自ら剣を取る
星の輝きを
持つその手で
そして我らは
共に血に濡れるのだ
我らだけの
王子のために
☆特別編☆END

ファイアーエムブレム™
第6話
紋章 I
もんしょう
王子のために

オレルアン草王国の南
アカネイア聖王国との
国境 ドルーア帝国
領地内
レフカンディ
う
うわっ
ザッ

ばっ
紅毛の竜騎士マケドニアのミネルバ姫だっ
今は亡きアカネイアの騎士たちよ
我と剣を交えるか否か!?
わっ
撤退だ
捕まったら殺される!!

ざざ
ざっ
無様な！
いや
お見事お見事！
さすが
元マケドニアが
誇るミネルバ姫と
その白騎士団だ
ハーマイン将軍

残党狩りも
おかげで順調だ
アカネイアも
オレルアンの残党も
この国境の
レフカンディの谷に
近づけもせぬ！
！
どこへ
行かれるのか
あまり勝手な
ふるまいをなさると
ディール城におられる
妹姫が
マケドニア王より
火急のお召しが
あったのでな
ここより北の
元オレルアン領
レーデン城へ
行かねばならぬ
今はドルーアが
パオラ
カチュア

今はドルーアが
制する
オレルアン緑条城に
・・・反乱軍が
迫っているのを
ご存じであろう？
どう対するかを
ドルーア連合国
諸侯列席のうえ
検討する軍議が
開かれるのだ
パオラ
カチュア
エスト
行くぞっ
はいっ
しっかりと
この陣地を
護られよ
将軍
ここを
陥とされでも
したら
・・・我らドルーアの
痛手は大きいぞ！
ち
レーデン城へ
行かねばならぬ

マケドニア王といっても病の床に臥す父王ではなく兄王子ミシェイルではないか
呼ばれて当然だ!
このわしにはそのような軍議よりもこのレフカンディを護るという大役があるのだからなっ
またあのように低く飛ばれて…
人々によく見えるように
紅毛の竜騎士
その姿に驚いて反乱軍が逃げ隠れるなら余計な戦いもせずにすむ
きつとニーナさまがお集めになつた軍を散じられたのも同じ理由から

竜に変化する
伝説の竜人族
百年余り前
アリティアのアンリが
神剣で封じたはずの
竜人族の地竜王
メディウスは
復活と同時に
魔道士ガーネフと
ともに
グルニア・グラ・
マケドニアの三国を
統合して
ドルーア帝国を建て
聖アカネイア王国と
宿敵アリティア王国を
陥落させた
竜騎士
散じられたのも
同じ理由から

逃れたのは
ドルーアの人質となった
聖アカネイアの
唯一の生き残り
ニーナ王女と
タリス王国へと
その身を隠した
アリティアの
マルス王子
アリティア王妃と
マルス王子の姉
エリス王女も
神剣ファルシオンと
ともにドルーアに
連れ去られた
最後の王国
オレルアン草王国も
王城が陥ち
大陸はドルーアの
ものになると
思われた
だが
伝説は
生きていた

連れ去られた
アリティアのマルス王子が
二年の沈黙を破り
反ドルーアの狼煙を
上げる
そして
ニーナ王女を
オレルアン王弟
ハーディンが救出
マルス王子と合流し
人々は湧きたった
伝説は
生きている
聖アカネイアの下
オレルアンと
アリティアが集う
百年前のように
アリティアの
光の王子が
大陸を救う
ふたりは反ドルーアの
基盤を
固めるべく
オレルアン緑条城へと
進軍を開始している

レーデン城
早かったな ミネルバ
兄上
ミシェイル国王殿下!
まだ全員が揃っておらぬでな 軍議が始まらぬ
早く始まり 早く 終わればよい
戦場が性に合うようだな エリーヌ その仇名の 戦いの女神の とおり
私は大いに 気に入っている その仇名!
そなたの働きぶりは 諸国の面々にも 知れ渡るところ

ドルーアの中での我らマケドニアの評価も高まるというものだ
戦禍をさけてディールにいるマリアも喜んでいるだろうよ
ミシェイルさま
国のためだもの私は平気よ姉さま
姉さまこそお身体に気をつけられてお父さまとお兄さまを助けてさしあげてね
戦禍をさけて——だと?
反乱軍はもはや緑条城の城壁に手をかけようかというのに実は議長すらも決まらん
グルニア王などは黒騎士どのまでも呼んだとか
カミュどのを!?
戦いの女神のとおり
知れ渡るところ

黒騎士どのの活躍も
おまえに負けず
劣らずとの話
はは
しかし
未だ到着せずで
グルニアは
恥の上ぬりと
ならねば
よいがな
生き延びろ
ニーナ姫
アカネイアの血を
継ぐ者よ
黒騎士
カミユ
誰もが彼が
ニーナ王女を助けた
ことを知っている
それ故にあれほどの
騎士が最前線で
戦っていても
誰も異議を唱えない
ドルーアでありながら
なおもグルニアの
騎士としての誇りを
捨てない男

ミネルバさま!?
彼に比べ
私は何をしているのだ
今も聖アカネイアに従うアリティアとオレルアンを反乱軍と呼び
裏切りの空にただ舞うばかりの半端な竜騎士

元アカネイア聖王国
北東部
アカネイア山中
ザァァァァ
ザァァァ
いまや
残党呼ばわり
されてはいても
元はアカネイア
正規軍の
このわしの部隊を
たったひとりで…
ラック将軍
ぴく

ザァァァ
伝説の聖槍も使わずに
恐ろしい男だな貴公は
黒騎士カミュ
ラック将軍
あなたとこんな道中で出喰すとは
マルス王子とハーディン公の反乱軍に加わるおつもりであったのか？
ザァァァ
ぴく
私はその反乱軍にどう対処するかのドルーア連合軍議に行く途中だったのだ
かように遅れてわが主君になんとわびればよいものか

…何故だ
マルス王子とハーディン公のもとには我らがニーナ王女がおわすのだぞ
知らぬわけではあるまい
貴公が救い出した聖アカネイアの姫が!!
我が主君はドルーア帝国グルニア国国王のみ
騎士となりて人の心を忘れたかぁカミュ!!

姫が!!
殺った!
ふわっ
まだ この命
くれてやるわけ
にはいかない
まだ

何も始まらない
終わってもいない
反乱軍――は
斬りあうための剣を手にしたばかり
緑条城に入ったか?
ならば厄介だな
目指すは戦場
知っているかそこに総てがある

手に入れろ
そのための力だ
オレルアン草王国
北部
オレルアン大草原
ドオオオン

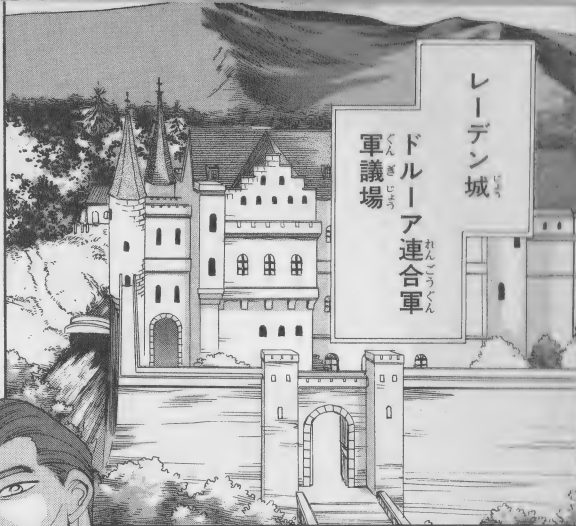
こっこれが魔道の風なのかっ
手綱ひきしぼれよっ落ちるぞっ
アリティアのマリクの風刃と言ってもらいてぇなっ
ぶあっ

ひるむな
緑条城は目の前だ
オオオ
オオオ

シスター・レナ
緑条城がもうあのように近くに
はい　ニーナさま
追いつめられた敵は僧侶とて見境なく襲うだろうと今日は私も待機を命じられております
誰にか？
今日はハーディンさまでございました
もろもろのことマルスさまとおふたりでお決めになっておいでですが
そう——
洗練された物腰のシスター

この戦争で国も家族も失くしたどこかの貴族の娘やもしれぬ
たとえそうだとして
いったいどのくらいの人々がこの戦いで泣いているのか
決着をつけねばならぬ早く
それができるのはあのふたりの王子

国王は…
もはや伝説におさまらず道は続くばかり
ドルーアを倒すために
策を考えるのはふたりでもよいだろう
だが命を下すのはひとりでなくては兵たちがとまどうことになる
道はひとつでなくてはならぬ
総ての力がそこに集うためには
そしてそのためにわたくしができることは
これで前線はオレルアン緑条城内でしょう
城下の町に被害が出ていなければよいのですが

国王は…
生きておられるだろう
オレルアンは常に王のもと時を重ねてきた国だ
国王を殺しては領民が黙っておらぬことくらいはドルーアといえど判っていよう
しかし国王を人質にとられて城にたてこもられてはこちらの勝機は遠ざかる
まごまごしていると増援が来てしまう元のもくあみだ
ニーナさまのアカネイアもやっと視えてきたというのに——
よいのですが

レーデン城
ドルーア連合軍
軍議場
さて かたがた今日我々が集まったのは緑条城に迫りつつある反乱軍についてだが
あのグルニア王の得意気な顔はどうだ
たかが進行役をやるぐらいのことで…のう
しかし あのつぼの中の首!

まちがいなく
あのラック将軍の
首であった
将軍の軍には
魔道士もいた
はずだが
部下も伴わず
たったひとりで
さすが
グルニアの
黒騎士カミュ
なんという男
ぶるっ
彼はどう
その剣を使うのだろう
どう戦うの
だろう
どんなに
強いのだろう

とんとん
ドルーア帝国の
一部となった今でも
諸国の国家意識は
根強い
遅れたことを
帳消しにしたうえ
議長の座も
自然に決まるほど
グルニアの株さえ
上げるとは
なんという男
ドルーアには
なくてはならぬ騎士
敵でないことを
感謝せねば
なるまいが
私の前に
立つならば
——敵だ
おお そうだ
カミュどのの
黒騎士団に
緑条城へ
向かってもらうは
どうだろう？

！
それは良い案かもしれぬなグラのレム将軍
カミュどの以下人馬共に並はずれた強者ぞろいとか
前々から黒騎士団の名は大陸に知れ渡っておる
反乱軍にはニーナ王女が
三日もあれば間に合うであろうよ
カミュどのの戦功をやつかみ
あわよくばグルニアそのものの信用をも落とそうと
どうだろう？

ミネルバにでも伝令をさせて？
のう 良い案であろう？ ミシェイルどの
なるほど なるほど 黒騎士団にかかれば 反乱軍もひとたまりもあるまいな
だが二、三日中に大雨が来る
この河は増水すると とどまるところを知らず 毎年 橋も流されるとか
びく

空のことは
天馬と竜と
鳥のつぎに
我ら竜騎士が
よく知っている
馬で 逆巻く河は
いくら貴公でも
渡れまい？
カミュどの

——御意
マケドニア王

それでは…

ミネルバにでも伝令をさせて？
のう
良い案であろう？
ミシェイルどの
なるほど
なるほど
黒騎士団に
かかれば
反乱軍も
ひとたまりも
あるまいな
ギ
だが二、三日中に大雨が来る
この河は増水するととどまるところを知らず 毎年
橋も流されるとか
びくっ

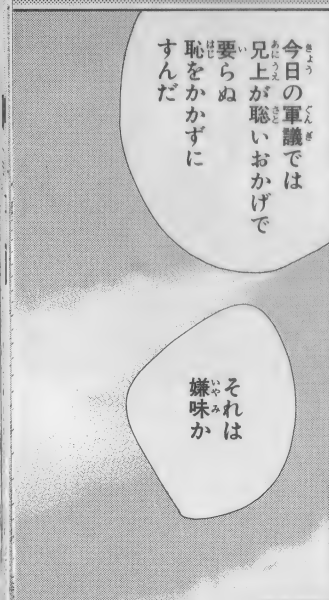
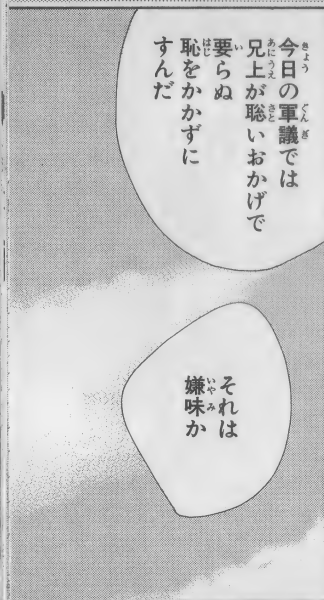
空のことは
天馬と竜と
鳥のつぎに
我ら竜騎士が
よく知っている
馬で 逆巻く河は
いくら貴公でも
渡れまい？
カミュどの

――
御意
マケドニア王

それでは…

橋も流されるとか

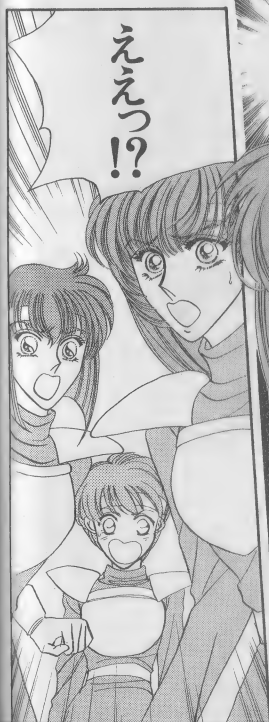
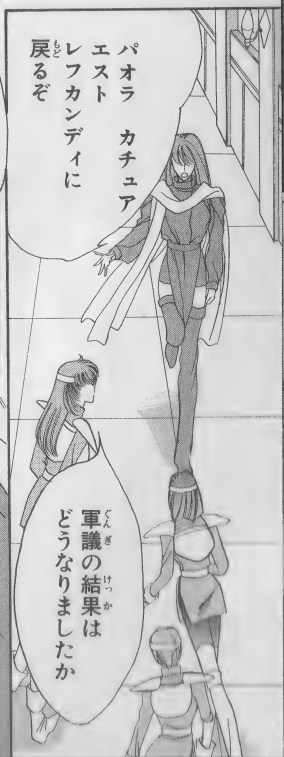
カミュ

これは
ミネルバ姫

今日の軍議では
兄上が聡いおかげで
要らぬ
恥をかかずに
すんだ

それは
嫌味か

何を言われるか
ミシェイルどのはまず他国の領民のことを考えられたのだ
飛竜ならばともかく 雨でもろくなった地を早駆けの騎士団が通りすぎたならその地はただではすむまいよ
あ
一国の被害はドルーアへの不信となりやがて総ての国々への害となりうる
ミシェイルどのは常にマケドニアのことを考えておられる
だからこそ我が妹マリアはマケドニアより遠く離れたディール城にいるのだ
ドルーアへの忠誠の証として
戦いで死ぬのは人ばかりではないのだ
まずは信じられよミネルバ

カミュ
あなたは
何を
信じて
おられる？
国を
王を
騎士である
私自身を
他には
何もない

あなたは
戦いで何が死んだと
いうのだろう？
パオラ　カチュア エスト レフカンディに戻るぞ
軍議の結果はどうなりましたか
オレルアン緑条城は 城にいる マケドニアの兵ごと 捨てることになった
ええっ!?

オレルアン草王国
オレルアン大草原

ゴロゴ

ザザァー
ア

持久戦は駄目だよ

ニーナさまがいる限りハーディンにとって兄王の命は紙よりも軽い

人質とされてもドルーア側の脅迫なんか意に介さないに決まっている

城におられると思われる王族の方々は陛下妃殿下と王子がおふたり王女がおひとりですが
何人おられても関係ないんだ
マルスさまはどうなさるおつもりですか?
持久戦に持ちこまれたら一度は退くことも考えるべきだと思う

国王らのお命を考えるならば
緑条城に増援が来てしまいます
軍備を再強化されれば逆に追っ手をかけられるかも
そうここまで来てこの機会を逃すわけにはいかないッ
ぎゅーッ
だからといってハーディンの考えに諸手を上げて賛同できると思っているのか
ぼくの目の前で兄王ブレナスクを見殺しにすることなど絶対に許さないッ

させない
そんなことは
王子
持久戦にならなくても
国王を盾に
とるだろう
ドルーアは
とられる前に
手を打てば
いいんだ

アリティアには
アリティアの
やり方がある
立派になられた
コーネリアス王や
妃殿下
エリスさまに
お目にかけたい
ものだ
ここまで来た
王子も
ここまでに
なられたと
だが
先々
もめるな
ぼそ
ハーディンさまと
真っ向から
ぶつかることに
なりかねない

雨はますます
ひどくなります
ほら 雷も
ここ二、三日は
こんなお天気だわ
きっと
ゴロゴロ
空のことは
天馬と竜と鳥と
竜騎士のつぎに
天空騎士が
知っています
えっへん。
心強いよ
シーダ
みな
ぼくの力だ
どうか
欠けぬよう
城と国と王は
取り戻してみせる
ザー…
☆第6話／紋章Ⅰ☆END

ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
第7話
もんしょう
紋章
II

ニーナ　ニーナ　我が娘
これは炎の紋章　アカネイアの御印
これを授けられ　これを掲げて　戦う軍は　聖アカネイアの　軍となる
これを使う者に　聖アカネイアの　全権が　委ねられる
マルスと　ハーディンに　どうぞ伝えて
オレルアン緑条城が　必要以上に　血に濡れることの　ないようにと

マルスさまは判ってらっしゃいます！
ドルーアを倒すにはまだマルスと我々だけでは力が足りぬ
ドルーアでなく我々を信じる剣を持たぬ人々の心が何よりの力だ
オレルアン王でなく聖アカネイアのニーナ王女が生きておられるということを知らしめねばならぬ
さすれば人々はドルーアでなく我々に眼を向けてくれるだろう

炎の紋章を
最後に使ったのは
アルテミス姫
英雄アンリではなく
国々を建て直す
力を持った
オレルアンの王子に
紋章を託し
人々が望むまま
その王子を
受け入れて
聖アカネイアの
血を残した
アルテミス
ドルーア連合軍は
オレルアン緑条城を
捨てる
反乱軍との
力の差はまだ
ある
緑条城を
とり戻して
喜び勇む
反乱軍を
叩き潰した方が
世界に与える
衝撃も倍になる
そんな

緑条城で指揮をとるマリオネス将軍以下城の護りを固めているのは多くは我らと同じマケドニアの兵ではありませんか
軍議の決定に逆らうか?
兄上…マケドニア王も異議はなかったのだ
ミネルバさまミネルバさまは──!?
わたしはマケドニアの竜騎士だ
どうしてマケドニア王に逆らえよう?
我らが為すことはハーマイン将軍の下レフカンディの砦を守ることだそれだけだ!!

自分が為すべきことをするだけ
それだけだ
ドドドド
ドドド
ワオオオオオオオ
おれたちの城から出て行けドルーアッ
それだけだ!!

何故増援が来ない!?
マリオネス将軍雷雨に怯えて飛竜が飛びません
ザァァ
ギイ
バサ
バサ
国境のレーデン城で軍議があったはず
何故増援が
ワァァ
あ
あ
ピン
ガチャン

バァーン
おら 次 いくぜっ
ありゃ ジュリアンの兄貴だ 久しぶりぃ
たはー
リカード!? てめえ相変わらずドジ踏んで捕まったのか
ウェンデル先生!! 何故こんなところに
あぶないッ
うわっ
アリティアの連中かっ こんなところで何をしてるんだっ
牢破りさ

盗賊なんぞに
つきあってたら
ハーディンさまに
怒られるぜっ
リカード
助けて
やったからには
手伝えよ！
あいよっ
でも
いいんスか
なんか大騒ぎ
してますけど
どどど
いいんだよっ
なんたって
おれらの大将は
アリティアの
マルスさま
なんだぜっ
ピン
！

ブレナスク陛下っ
へ？
ざざざっ
やったぜマルスさま！
ぐっ
わあああ
待てハーディン
王間はすぐそこだぞ？指揮官がいるに違いない
ブレナスク王の御無事がまだ確かめられていない

手を伸ばせば届くのにそれすらもしないのは卑怯だ
届いたもの総てを手に入れられると思っているのか
マルス おまえの姉君のことは伝え聞いて知っている
…!
わあ
おまえは今の私に自分を重ねている
だが過去はやり直せない
違う ぼくは
言ったはずだ私はニーナさまだけを護りぬく
やり直すんじゃない
もう二度とあんなことのないようにと

シーダ
お救い申し上げました
オレルアン王ブレナスクさまをお心おきなくお進みください
!!
あなたがニーナさまを選ぶのを知っていたから
ぼくはオレルアン王を選んだんだハーディン

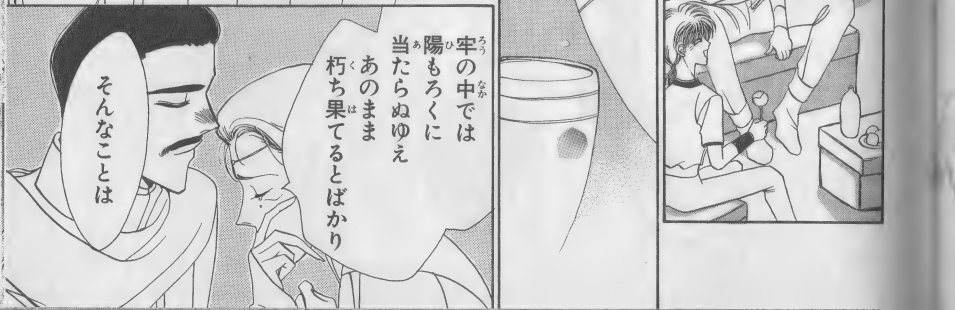
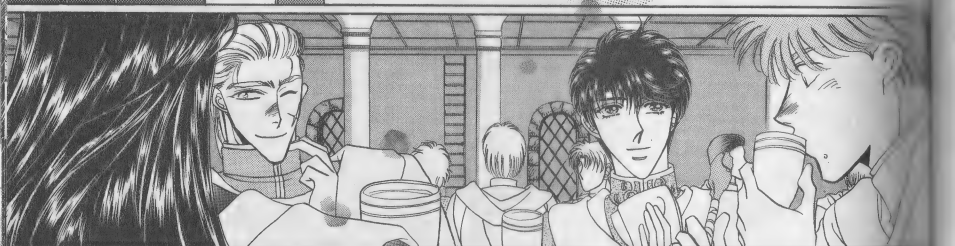
力を知らない昔には
伸ばす手は
何にも触れなかった
だけど
今は
総てに手が届く
わけじゃない
だからこそ
自分の力が
使える距離に
いるものを
離しはしない
ダッ
マリオネス!!
マルス
ハーディンッ
民を国を
王を
辱めた罪!!

己が命で贖え!!
緑条城が解放された
人々よ 扉を開けよ 我らは聖アカネイアに祝福されたアリティアとオレルアンの騎士

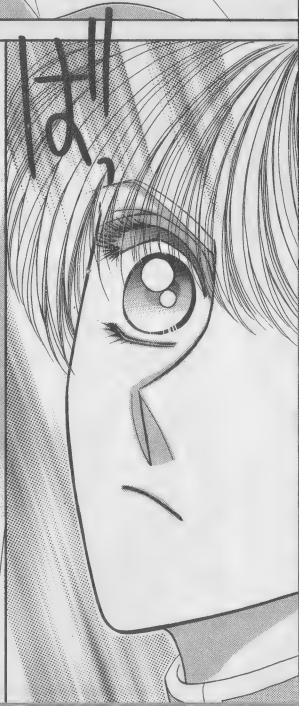
確かめられよ
オレルアン
緑条城に
在る奇跡を
――!
ワ
あ
あ
あ
あ
ああ 王さまも
お妃さまも
御無事だ
姫さまも
王子さまも!

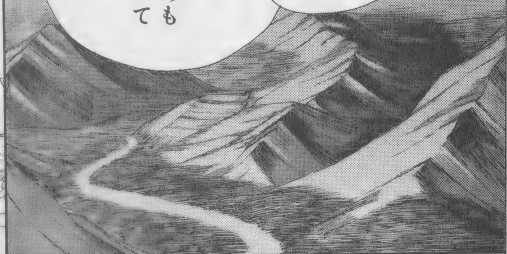
あのお方がアカネイアのプリンセス・ニーナだ!
草原の狼!
ハーディンさまだお戻りになられた!!
やったぞ
この人々の熱気を見ろ!
…しかし貴公らのアリティアはまだ…
気にすることはないさ
おれたちは勝ったんだ!
ぐい
ぐい
さあもっと顔をよく見せてやらねば!
オレルアンの民には初お目見えだ
ハーディン

あ！
あれは
きゃ
あれが神剣の王子
アリティアのマルス王子だ

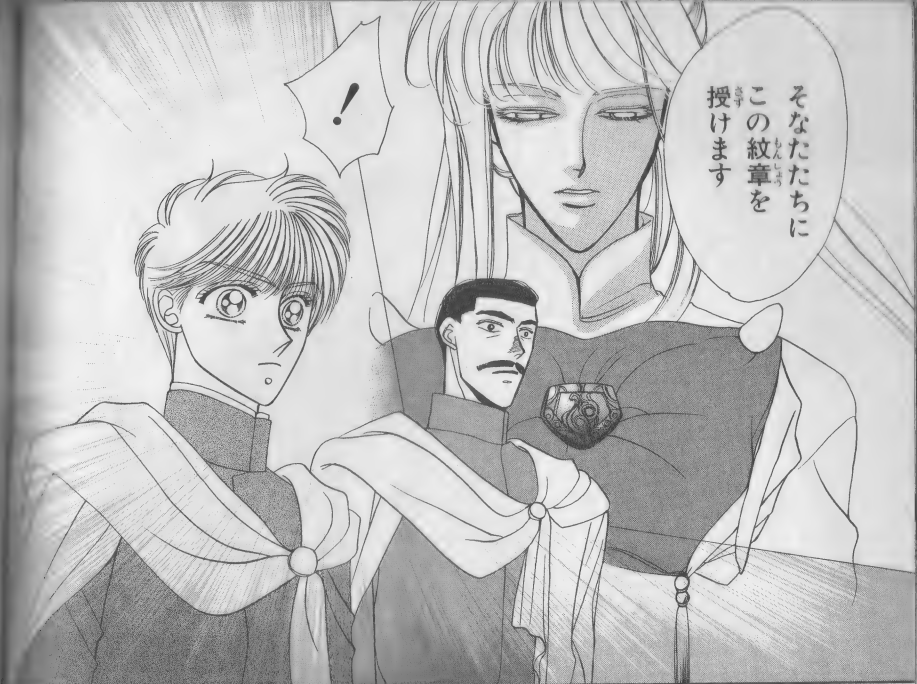
勇者たちに祝福を！
感謝と勝利の宴だ
おおハーディン！
義姉上少しおやせになられましたな
牢の中では陽もろくに当たらぬゆえあのまま朽ち果てるとばかり
そんなことは

まるで絵のようだ
光の王子
背負う伝説が人々の輪の中からマルスを浮かびあがらせる
そんなことはさせませぬ
伝説にかけて
私ではああはいくまい
これは王女さま王子さま
お礼を言いに参りましたの！
ありがとうマルスさま

この子たちが
泣くことの
ないように
いつの日にかって
いつ
こんなの約束にも
ならない
このぼくに
そんな力が
あるのですか
アリティアも
母さまも姉さまも
神剣の行方も
まだ視えないけれど
もっともっと
もっと先まで
行くために
ここまで来た
強くなる
たくさんの力が
ぼくとともに
在る
行くがいい
おまえは
ひとりでは
ないのだから

我が角より
成りし神剣を手に
ぱっ
今のは
誰？
強くて
なつかしい

この熱気
未来を信じる心を感じる
ドルーアとの力の差に気づきながらも
心が敗けていない
この勢いを殺すわけにはいかない
大丈夫かい マリク
横になってていいから。
ぱた ぱた
申しわけありません
祝いの酒だからとつい調子に…
浮かれるのも無理はない
万事うまくいったからね

アリティアの別動隊がオレルアン王らをお助けする作戦は言ってなかったし
雨と夜の闇に乗じて 城に乗りこむというのもハーディンにとって騎士らしからぬ方法だろうに
緑条城を確実に取り戻すための策と判断をなされたのですハーディンさまは
逆に騎士としての経験がそうさせたのですよ
はい水
ありがとう
マルスさまには未だ足りぬものです
うん
悔しいけどね
ひとつの軍にふたりの将は要らない

じいの教えてくれた
兵法書にも
初歩の初歩
だとあったよ
兵が混乱して
自滅するって
やっとひとつの
大きな力に
なりつつあるのに
やっと
ここまで
来たのに
どちらが将でも
やることは
戦争だ
コポ
ただ おれが剣を
捧げたのは
ハーディン公にじゃ
ないが
そうです
マルスさま
!

おれたちは
誰ひとり
欠けることなく
王子の力です
誰の下に
いようとも
何を迷うことがある
我が剣を
我が忠誠を
ドルーアを倒すために
指揮をとるのが
ハーディンさまだと
しても　それだけは
絶対変わりません！
我が運命を
我が主君に
うん
共に道を往く

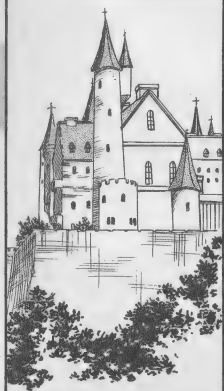
炎の紋章
行使する者が
己が身を
犠牲にすることに
よって世界は
救われるという
伝説を持つ
アルテミス姫の
ように
己が心
己が愛
けれど
この身は
私ひとりの
ものでなく
マルス
ハーディン

そなたたちにこの紋章を授けます
!
誰もが知る紋章にまつわる悲しい伝説それを知りながら
ざわ…
いえニーナさま
聖アカネイアの姫はただ護られているばかりではない
・・・私たちではなくマルス王子に託すと宣言なさいませ
ハーディン!?
!

ぼくに反ドルーアの軍を率いよと！
まだこんなにも力が足りない
両の腕が届くところを護るのがやつと
それだけでやっとなのに悔しいけれど!!
ぼくはアリティアの名を背負うのさえやっとなのにアカネイアの名をこのうえなんて……！
自信を持てマルス
にじみ出す悔しさ口惜しさ！
成長が追いつかぬことへの
おまえの後ろにこそ

伝説が視える
それは私だけでなく世の人々にも視えているはずだ
だからこそここまで来たのだ
皆 おまえを信じている
これからの戦い総てが
伝説になる

ぼくは炎の紋章を持つに値するか？
信じている！
ぼくたちの伝説を作ることに異存はないか!?
共に往くと再び誓おう
炎の紋章を持つ光の王子と!!
マルスそなたに

炎の紋章を託します
大陸をより良い方向へと導いてください
おれたちはハーディンさまの騎士以外にはなれぬ
!
だが信じているアリティアの奇跡を!
ああ!
はじめはみなひとりひとり
思いもかけず絡みあい離れ つながり
やがてひとつの流れを作る
共に往こうドルーアを倒すために

大きな 確かな 流れを
オレルアン草王国は
完全に反ドルーアの
体制をとる
マルス王子率いる
アリティア軍と
ハーディン公率いる
オレルアン軍は
炎の紋章を持つ
マルス王子の下
団結し
アカネイア解放軍として
正式に兵を挙げた
緑条城が
落ちたか
思ったより
よく保ったな
メディウスさまと
ガーネフさまに
とっては
どうでもいいこと
だろうが

だが我々は
日々を生きねばならぬ
竜人族が
頂点に立つ
この御世でも
我がマケドニアを
栄えさせて
みせる
反乱軍は
ここぞとばかりに
アカネイア・パレスへ
向かうだろう
レフカンディの谷を
通る最短距離で
レフカンディの
護りを固めよ
一気に
叩き潰してくれる！

☆第7話／紋章II☆END

第8話 谷響 I

お父さま
お母さま
お元気ですか
タリスは平和ですか

わたしたちは――――
マルスさまは オレルアンを経て
オレルアン王弟ハーディンさまと
合流して
聖アカネイアのニーナ王女から
炎の紋章を授けられました

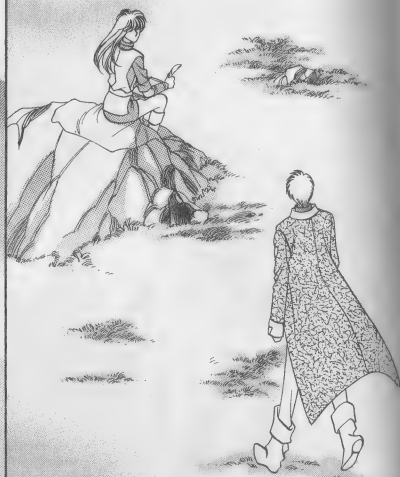
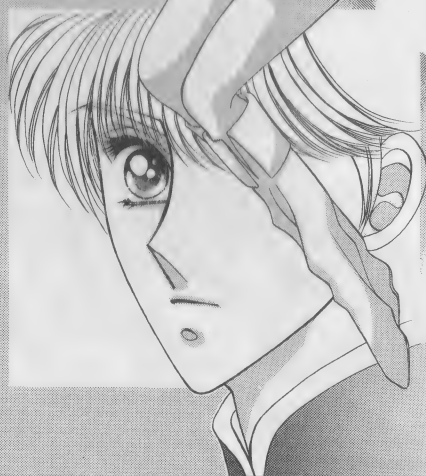
マルスさまを将として
聖アカネイアの首都を
取り戻すべく そして
ドルーアを倒すための
大きな一歩を踏み出すべく
レフカンディへと
向かっています

ファイアーエムブレム™

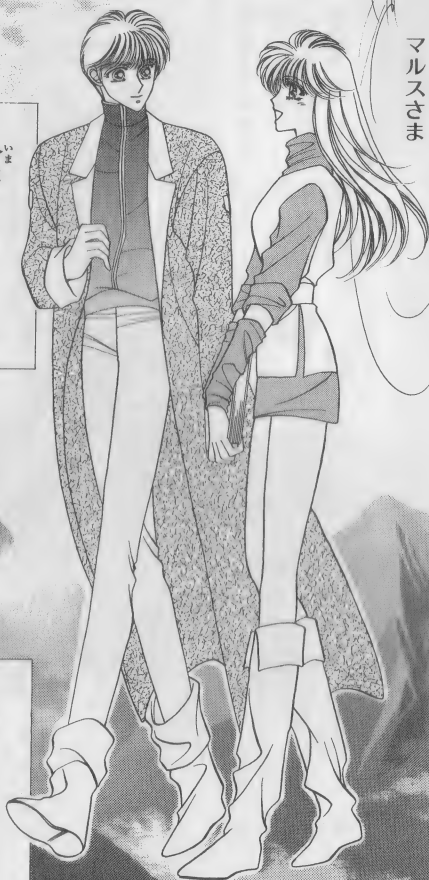
第8話

谷響 I

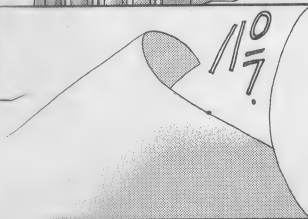
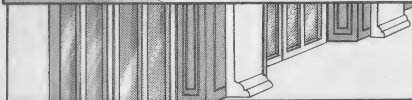
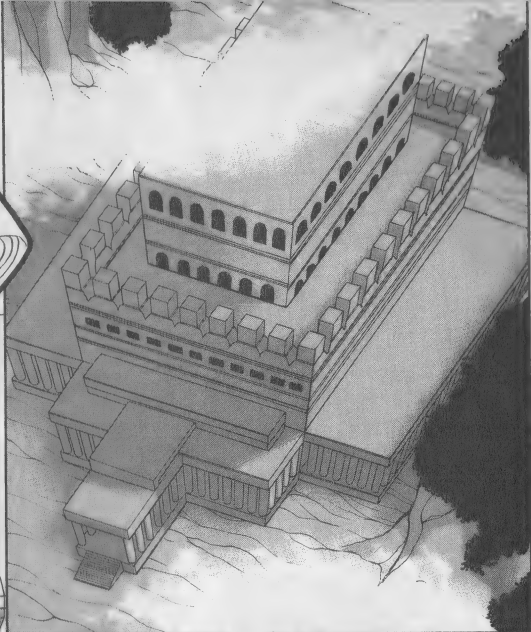
こくきょう

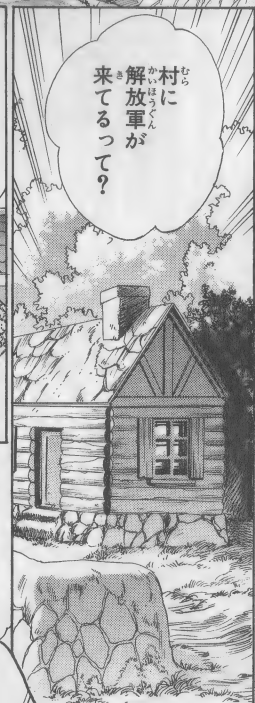
シーダ
何をしてるの？
マルスさま
手紙
書きためてしまって
そのくせつい面倒がって出さずじまいなんですよわたし
戦争中ですもの届くかどうか判らないし

帰りたい？
まだ間に合うよ 今なら
ここが最後の機会
アカネイアに抜けるたったひとつの道
このレフカンディの谷を通り抜けたら
もう引き返せない

先へ進めば
よいのでしょう?
解放軍の騎士を
試すようなことをされては
嫌ですわ
オレルアンとアカネイアの国境の地レフカンディ
…ごめん
シーダ
いいえ
マルスさま

いいえ
マルスさま
今は
旧マケドニアを
中心とする
ドルーアが
支配する地
馬はもちろん
人の足でさえ
越えるのが
困難な山々が
そびえたつ
それでも昔から
オレルアン
アカネイアの間を
行き来する
行商人が多いため
山中にも種々の店や
山小屋が多い

ここに宿屋
それで この山の五合目ぐらいに城がありました 小さいんだけど
レフカンディの谷と村が丸見えなんだそうで
ドルーアの連中はここで にらみをきかせてるみたいです
アカネイアの貴族の別荘だった あの城だな
他に何か手に入れた情報は？ ジュリアン
この谷あいの村に入れたらいいんですけどね ドルーアが押さえてるらしいんですよ
話 聞かせてくれた連中が口をそろえて言うことにゃ このレフカンディで一番恐ろしいのは

この城にいる元マケドニアの騎士
竜騎士か
この山の多いレフカンディの地にもっとも適した騎士だな
聖アカネイアに我々解放軍が入ればドルーアも焦るだろう
聖アカネイアは反ドルーアの象徴だからな
ドルーア側も万全の策を打ってくるだろうな

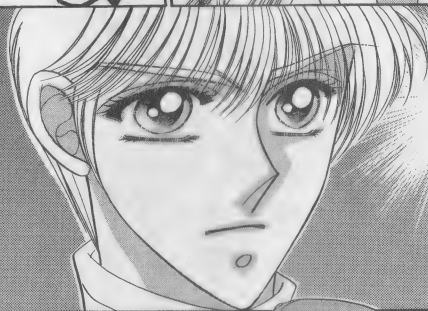
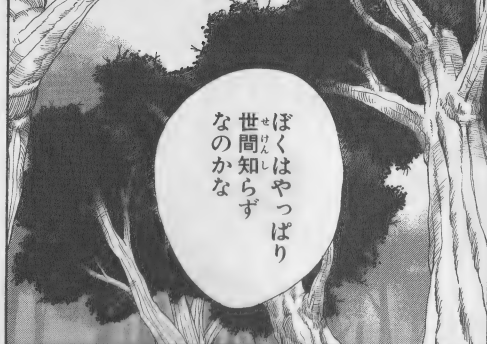
とにかく　この何もない　山小屋のような　砦から村へ　移動した方が　よいかと
そうだな　城まで一気に　駆け抜けるには　少し距離が　あるし
村へ向かうのも　見晴らしのよい　草原を通らねば　ならないから　気をつけないとね
激しい戦いになる

ドルーア連合国内
マケドニア国王より
直筆の書状で
ございます
ハーマイン将軍
ふん あの紅毛の
竜騎士どのの
兄君か
かの竜騎士どのは
部下の白騎士団の
お気に入りと
この城のどこに
いるのやら
パラ

村に解放軍が来てるって？
おうよ それを知ったからこそおれもオレルアンから出てきたのさ
家族がいるんでな
おれもあの村には女房がいるんだよ
もうすぐ帰れるぜこの山小屋からさ！

この向こうの猟師小屋にも帰るに帰れねえ連中がいるんだ知らせてやらなきゃ
解放軍ならあの村にいるドルーアの連中なんざあっという間だぜ
いやマケドニアの竜騎士にゃあちょっと苦労するかもってハナシだけどよ
なんだ知らねぇのかあそこの村にゃ竜騎士どころか騎士さまもいねえよ
へ？
下っ端も下っ端傭兵くずれがいきがって居座ってやがんのさ
なんだ雑魚かよ！
竜騎士はあの城にいる
おれたちに剣を向けるこたぁしねぇけど

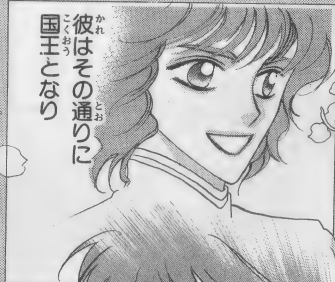
その姿を見た騎士は
恐ろしさに
逃げ出さずには
いられない
紅毛の
戦いの女神
それって
まさか
マケドニアの
王女ミネルバ

ミネルバ王女がレフカンディを護っているのか？
おれだって知ってる竜騎士だ
剣のひとふり竜のはばたきひとつでここらへんの反ドルーアの騎士けちらしてるって
王女みずから選びぬいた天空騎士の白騎士団もいるだろうな
厄介な――
すっげえ美人だって聞いたけどどな

妹のマリア姫が
ドルーアの人質に
なってんだ
とにかく
強くて強くて
強いから
騎士以外には
手を出さない
毎日
わずかながらも
前進して 村は
もう目前だと
いうのに
村には
入れると
思いますので
そこで態勢を
整えて城へ…
その村は
竜騎士のいる
城から
丸見えなのだぞ
ここまで
無事に
来れたのに…っ
いや
村へ入ろう

マルス!?
村の人たちを巻きぞえにしてまで攻撃はしてこないだろう ミネルバ王女は
騎士としてのミネルバを信じるか
…そうだな 今はオレルアンにおわすニーナさまが兵を集めようとするたびにあの竜騎士は邪魔をしたが
ニーナさまが軍を持たなかったからこそドルーアは総攻撃をしかけてこなかったといえる

山の中の道なき道を行軍し続けて食糧なども乏しいし疲れも見える
一刻も早く村へ入ろう
谷の城を落とすために
ぼくはやっぱり世間知らずなのかな
え？
そんなに何もかもうまくいくわけない
でも信じたいんだ

……
同じようにドルーアに身内を人質にとられてるからじゃなくて
誇り高い竜騎士
……
それでも騎士の心を忘れない
騎士としてのミネルバ王女を信じたい
……
皆きっと同じ気持ちのはずですマルスさま
けれど あなたはその気持ちを剣にかえなければなりません
判ってるよ
これは――戦争だ
……

あれはまだ
メティウスが
目覚める前
聖アカネイアでの
行事ごとに
何度も会って
言葉も交した
紅い髪の三兄妹
ミシェイル殿下は
マルスさまと同じく
国を継がれる方
なのですよ
彼はその通りに
国王となり
ぼくは国を失くして
彼の妹と戦う

こんなことが
今まで
なかった方が
不思議なんだ
きゅ…
心も戦え

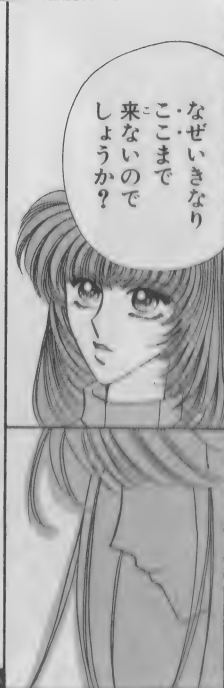
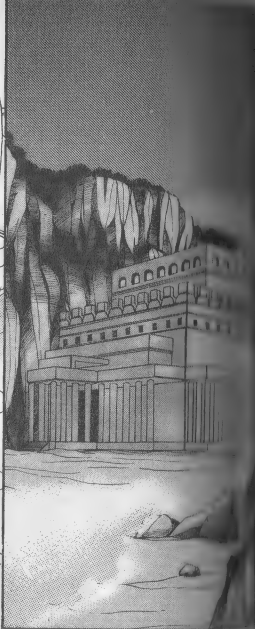
ハーディンさま
出撃の準備は進んでいるか？
今日は城がよく見えるな
昨日は朝から一日中霧に隠されておりましたが
谷特有の霧だな決まった時間に出るのでもなく
晴れてるからと一気に攻めたら今我々がいるこの砦からでは竜騎士にはあっという間に追いつかれる
その時に霧が出てこようものなら全滅もまぬがれん
だが村に入れさえすれば
竜騎士は来ないと思われますか？

本当に・・・
ああ！
私は騎士だ なのに 騎士の誇りと 心を 忘れかけていた
マルスが 思い出させて くれたよ
私ならば 民間人やその村を 犠牲にしてまで 敵を倒すことは ・・・できない
竜騎士は 来ない！

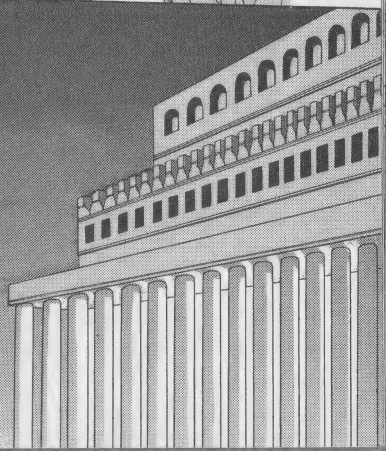
しかし
マルスが
揺れているか
…否定は
いたしません
ならば
支えよう
ハーディンさま――
マルスの力に
なるのだ
我々が

信じることが
この時に大事
ざわ
彼らは?
先発隊よ
夜の闇に乗じて
一足先に村に
入る
全軍で一気に
動くよりは
安全で確実
本隊は
夜明けとともに
動くわ

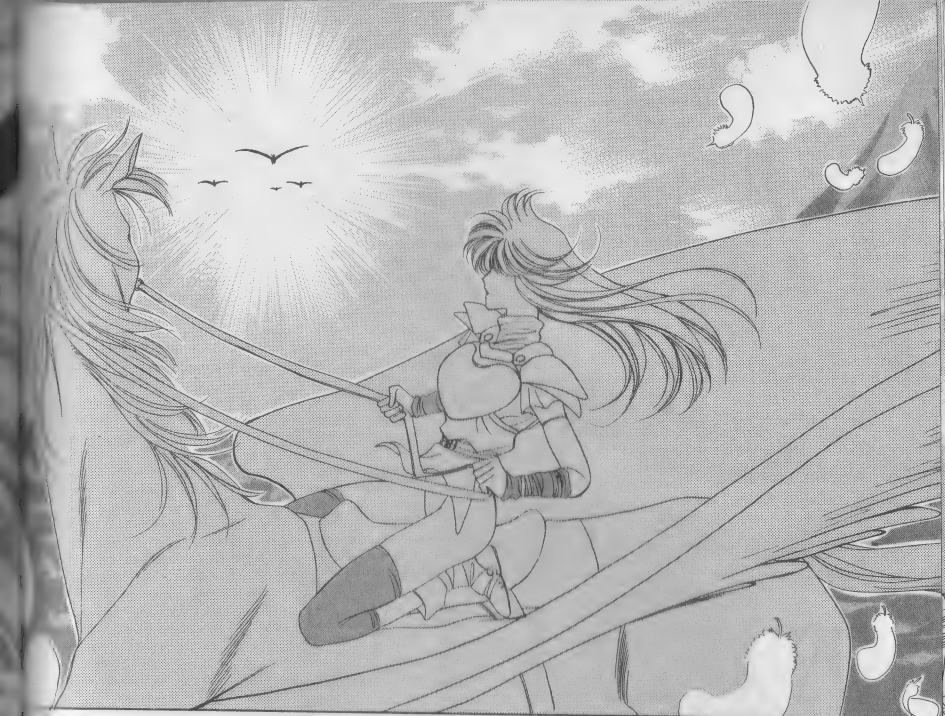
行くぞ
エルカイト?
ぴくっ
どうなさいました シーダさま
近くにエルカイトの仲間が 天馬が飛んでいるんだわ
敵か
白騎士団

薄霧が幸いだ
一刻も早く村へ！
先発隊に続いて本隊が動いた――か

カチュアからの報告によるとまずは村を制圧するつもりらしいな反乱軍は
なぜいきなりここまで来ないのでしょうか？
関係ない人々の住む村に入られてはうかつに手出しできんからな
私は
私を騎士と認めてくれたかマルス王子ハーディン公
聖アカネイアを裏切つたこの私を
ミネルバ王女

ハーマイン将軍
出撃の準備を!!
反乱軍の位置が正確に判ったのだ 村へ向かっている!
絶好の機会だ
マルス王子を殺せるならば多少の犠牲はやむをえん
村ごと叩いてもかまわぬと——?
知ってるわよ
しっ

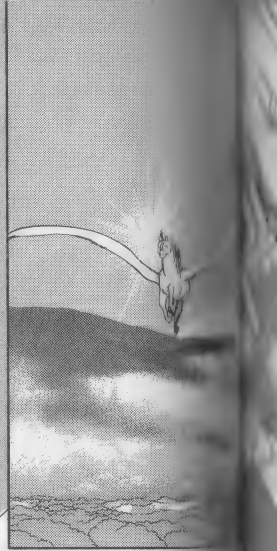
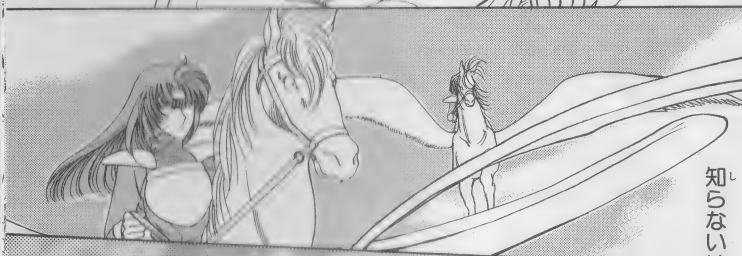
マルス王子は炎の紋章を持ち英雄気取りだ
奴さえいなくなれば反乱軍の士気はたちまち下がるだろう
我らドルーアの敵ではない!!
そのために先発隊を村へ入れさせてやったのだ
奴らは油断しておるはずだ
そこを村の手前に潜ませてある百余人の隊と共に 貴公が叩くのだ!!
待ちぶせ!?
ミネルバさまを囮に使うと言われるか将軍!!
何を言うか この完璧なる作戦において最も重要な役回りだ
ミネルバ姫なくしてこの策は成り立たぬわ

それに
これはドルーア連合国内
マケドニア王国国王
ミシェイル陛下の
指令でもあるのだ
ニヤリ
判った
ミネルバ
さま…
すぐさま
出撃する

急げ
できるだけ早く村へ！
やっぱり敵がいるか
だが

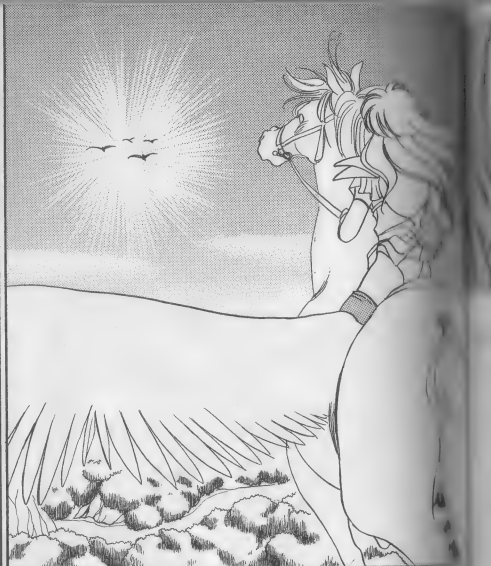
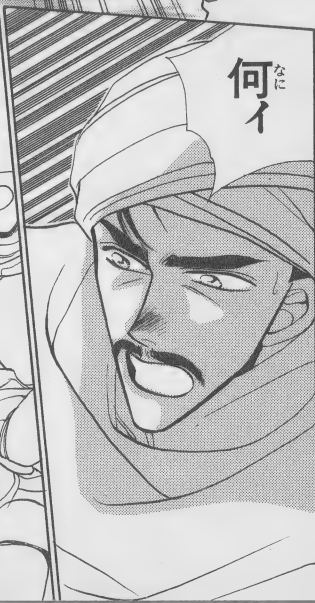
これなら思ったより楽に村へ入れる!
陽が真上に昇るころに先発隊は戻ってくるはずだ
村を制圧して!!
はッ

『炎牙』
マリク！
腕を上げたのう マリク
ありがとう ございます ウェンデル 先生
戦いは好まぬが 自由への礎と なるなら喜んで この身を捧げよう
先生！
どうしたの エルカイト？

あ

紅毛の竜騎士
！
シーダからの合図だ
竜騎士が来た！
ばっ

村が見えた！
走れッ!!
順調に村へ向かってるわ
あと少し
…あと少しで村に入れる
その前に来るようならば私が
竜騎士を止める!!

天空騎士
タリスのシーダ姫だな
陽が反射している
剣を抜いている
空で竜騎士と戦おうというのか――？
…勝ち目はないぞ
知らないはずはない
ただの時間稼ぎだ
仲間を

マルス王子を助けるために
――やはりこのような策は我慢できない
戦う時は正々堂々と正面から対する
それが私を騎士として認めてくれた彼らに対する礼だ
帰るぞパオラカチュアエスト!
はいっ!!

帰っていく
ほ
なぜだか知らないけど…よかった
──!
敵があんなに隠れてる!?

何イ
待ちぶせ!?
敵の数が少なすぎた
こういうことか!

だが背後から来るべき竜騎士はいない
この策が許せなかったのか
ワァァァ
先発隊は村の制圧に失敗したのかっ
?
ザザァッ
マルスさま
危ない来ちゃ駄目だシーダ
村へ…

☆第8話／谷響 I☆END

TM

第9話

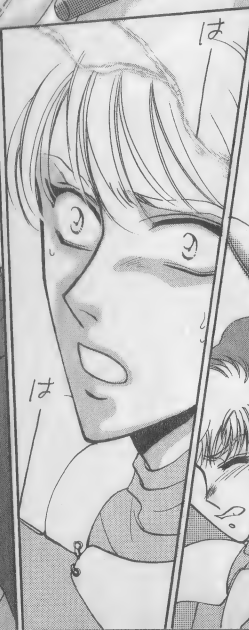
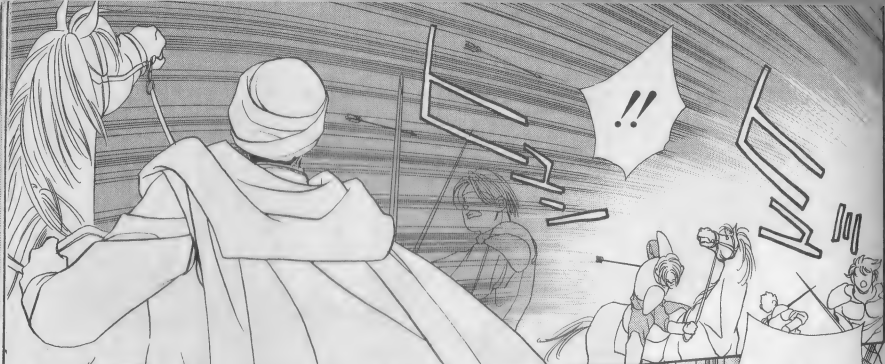
谷響 II

こくきょう

マルスさま

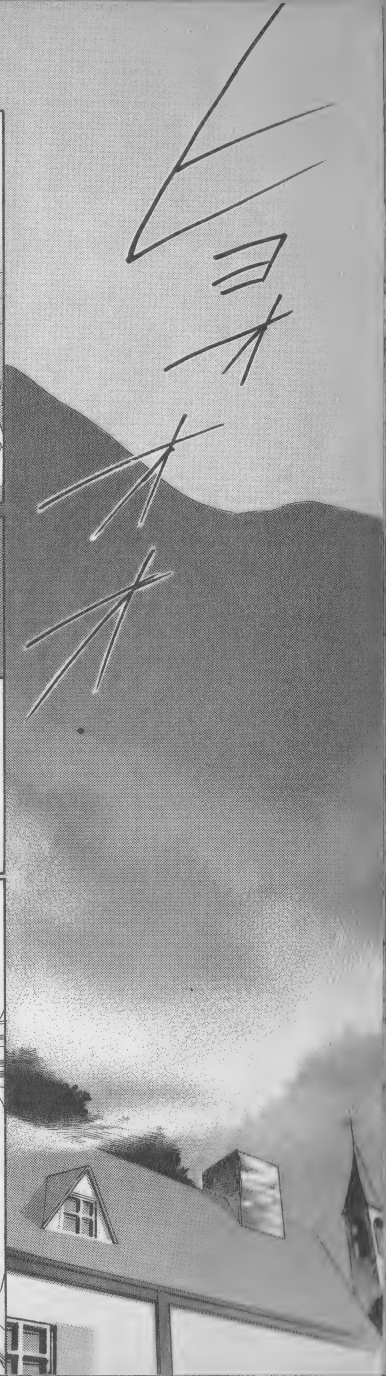
貴様ア
ひとりとて逃がすな

マルスが…
今この場で
起こったことを
ドルーアに
知られては
ならん
マルスさま
マルスさま
王子
マルスさま
声が
応えない
瞳が誰も
映さない
よくも…ッ

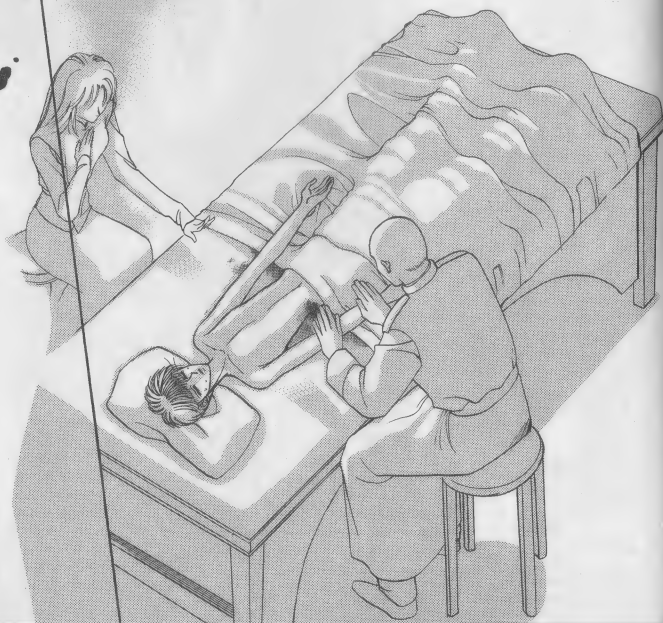
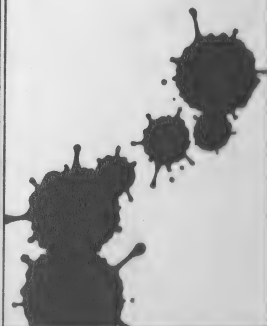
ぐあっ
うわぁ
しっかりせよ
マリク
負の感情に
心を奪われてはならんッ
は
は
『炎牙』!!

!!
村から
先発隊が
戻った
ドドド・
村が陥ちた
村へ入れるぞ
ウェンデル司祭と
シスターを
先に!
マルスさま
マルスさま
お静かに
姫!!
びく
誰も怪我など
しておりません
特に炎の紋章を
持つ人間などは!

ぐっ
とにかく村へ入りましょう
この場では何もできない
何も――!
どういうことだミネルバ姫

間違いなく
解放軍を
いや マルス王子を
殺せる機会
だったのに
あんなやり方が
騎士のやり方か
将軍!
この時代に
甘いことを言うな
貴公のせいで
反乱軍は
一歩アカネイアに
近づいて
しまったぞ
ドルーアに
とって
どれだけの
痛手か!!
さっさと国へ
帰って
ミシェイル陛下に
マリア姫の命乞いを
するがよいわ!!
村の近くに
潜ませておいた
部隊を引き
あげさせろ
城の護りを
固めるのだ
ハーマイン将軍
それが…
全滅…!?

ヒョオオオオ
この時期には朝夜は必ず昼日中でも時折霧が出るのです
空気が冷えてまいりました お戻りくださいませ
マルスさま
マルスさまありがとうございました
わっ
ハーディンさま
マルスさま

ありがとう
村からドルーアを追い出してくれて
マルスさま
マルス
「チキ」を捜してくだされ
あれは貴き血の娘
あの娘がいなくては「奴」に惑わされた仲間を救うことができぬ
やめねぇかバヌトゥじいさん
またそんな夢語りを
わしも今は戦えぬがきっと役に立ってみせる
だから共に行かせてほしい
いずれ必ずあの「石」を取り戻し…
――!?

よくやった
ゴードン
バサ
解放軍のマルスは無事村に入った
味方にも敵にも信じさせねばならん
アカネイアに入ろうというこの時期にマルスの…怪我は
解放軍の士気人々の気勢をそぐことになる
ドルーアにつけいる隙を与えてしまう

炎の紋章を授けられた光の王子
こんなところでいなくなってはいけない
ハーディンさま
いや 神剣を継ぐ人間だからというのでもなく
ただの人間としてまだ幼さの残る少年
死ぬな
マルス――

ただマルスさまのふりをしているだけなのに
四方八方から視線を感じるんだ
熱い あつい
戦場ではもっとたくさんの殺意
…痛かったろうな
みんなマルスさまに向かってゆく
痛いのだろうな
何故おれじゃなかったんだ おれでよかったのに

ちくしょう
マルスさまじゃ駄目なのに
マルスさまたったひとりにすべてが
信じてください
祈るのではなく信じてください
信じてるわ
他に何を信じろというの
こんなにもあなただけしか要らない

ギッ

あなただけが
たったひとつの
望み

こんなにも
こんなにも
願ってる

願ってるのに

傷薬とか
要るかい？

要らん
王子に回せ

返り血ばかりだ
心配するな

いったい何人
斬ったんだか

おれたち
だけじゃない
そうなんだ
よなぁ
おれらって
結局は
よそ者だろ？
…なのに
なんでさ
こんなに
震えが
止まんねえんだか
よそ者だと
思わなきゃ
ここの空気に
巻きこまれる
そう思っていても
喉がつまるのに
何もできない
自分を
見失う

もうおれたちは誰のものにもなれないってことだ
おれたちのマルスさま
命も捧げよう共に生きるためになら
ただマルスさまのためだけに——

声を聞きたい

静かだな

何も聴こえない
何もない

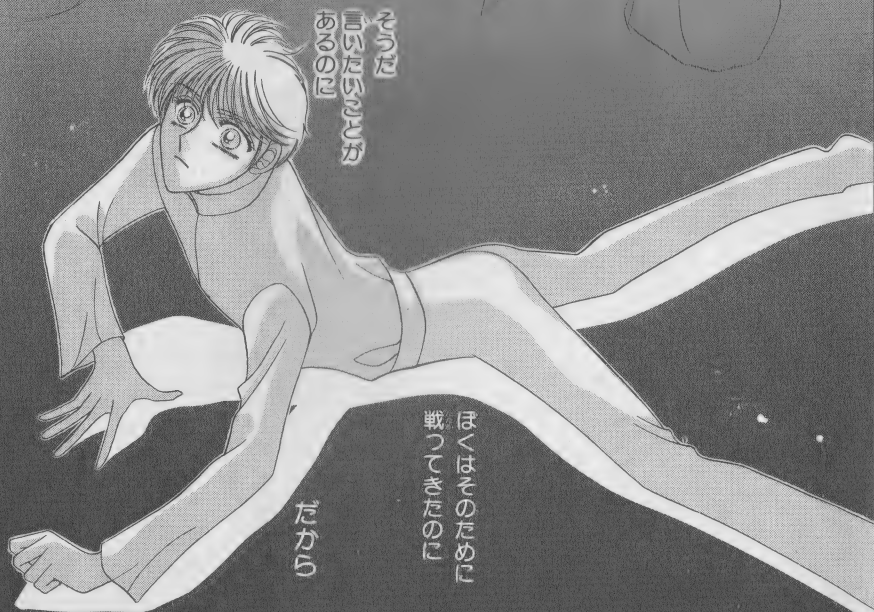
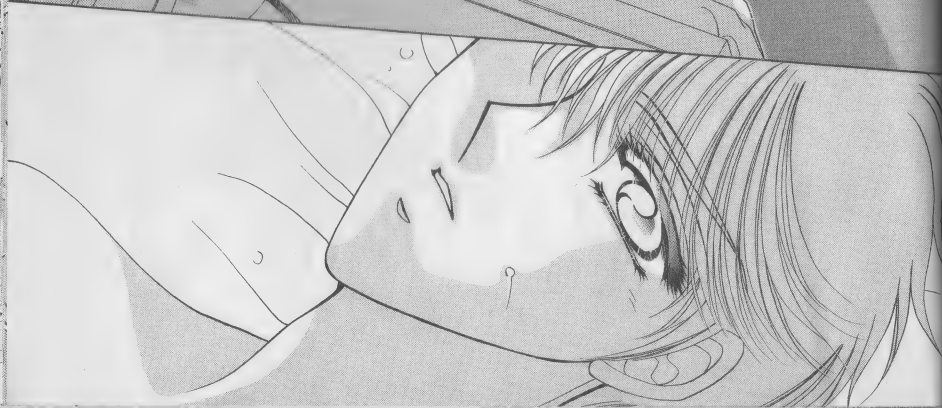
死にかけて
いるんだよ
マルス

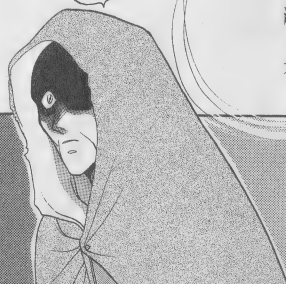
この声は
オレルアン緑条城で
聴いた声だ
アンリに連なる者よ
おまえの血をもって
しても もはや私は
こんなところでしか
会うこともかなわぬ
会えて
うれしいよ
あなたは
死んだ人
ですか？
遠く遠くの日に
滅んだものだ
おまえたちの
「死」とは少し
形が違う

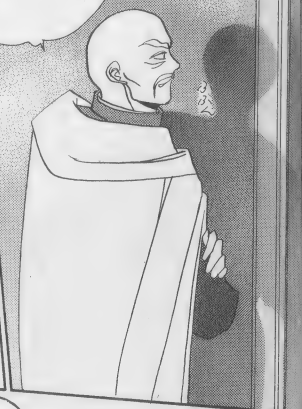
ただ告げよう
真実を
我々は消え去る存在
力の石を
持たぬ子が生まれ
最後の子は目覚めず
我々の心は欲望に
染まりゆくばかり
──だが
ああ もう
こんな場所でも
おまえには
覚えていてほしい
光の王子
この姿を
しているのが
つらい
──

我が角より成りし剣を
この大陸で継ぐ者よ
強いもの
愛しいもの
おまえたちは
どこまで行くの
だろう
栄えも滅びも
おまえの前にある
知ってる
ぼくの道は
ぼくが選んで
きたんだから

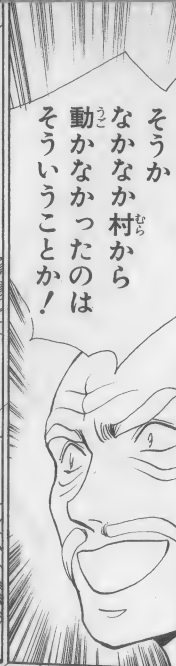
それでも
あなたは
ひとりでは
ないのに
忘れてしまったの？
マルス
だから
強くなりたかった
——のに
滅びないために

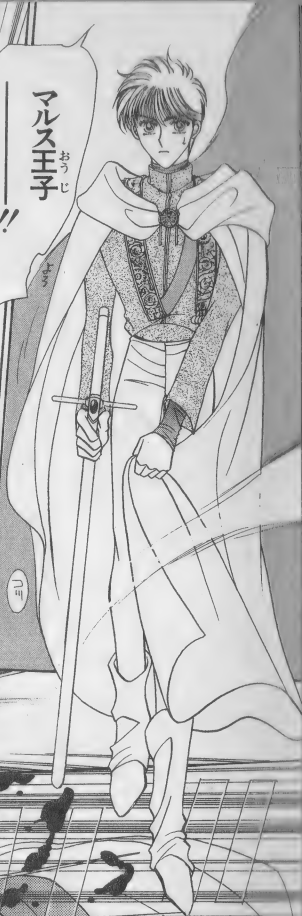
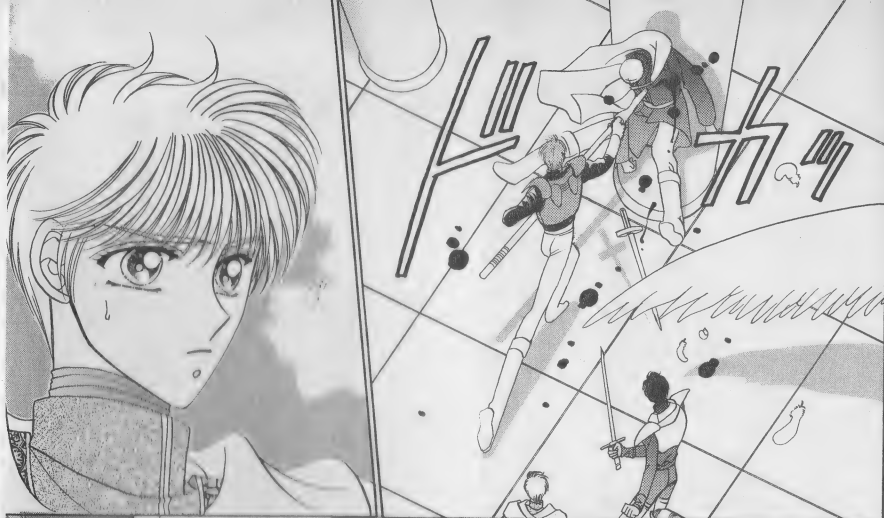
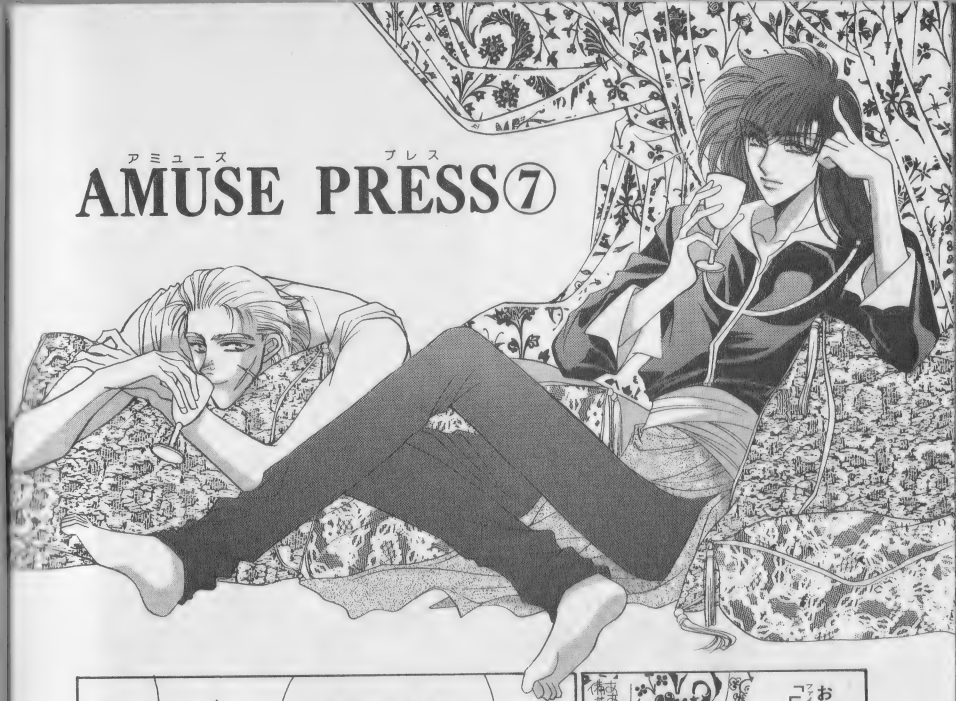
あなたはいつでも
ひとりでは
なかった
あなたを呼ぶ声に
あなたはまだ
応えてはいない
エリス
姉さ…
かの人が作りし剣は思いごと
私が視ていましょう
あなたはまだ
何も言っていない
のではないの？
そうだ
言いたいことが
あるのに
ぼくはそのために
戦ってきたのに
だから

帰らなきゃ

ご自分で帰ってこられたなんて
強い
言いたいことがあった…はずなんだけど
ぜったい思い出すから待ってて
愛しい
力を継ぐ者たち
はい
!

竜王——
ゴオオ
ええい
うっとうしい
霧めが
反乱軍のいる
村も見えぬ
しかし反乱軍も
動けぬか
ミネルバどもが
おらぬのは痛いが
増援が来るまでの
時間はこれで
稼げるわ
ぶつぶつ
王女だと思って
大目に見ておれば
つけあがりおって…

見ておれ
このわしの采配で
反乱軍を
ここレフカンディで
葬り去って
くれる
もっと上の
地位と名誉を
手に入れるぞ!
ふふ
!
ビリ
ビリ
なっ
なんだ!?
しょっ
将軍ッ
落雷です
雷が城壁を
崩して…
わあっ
まっ
また?

!
まさか魔道の…
あっあわてるなこの霧では魔法は通っても人馬は動けんっ高所にいるぶんこちらが有利だ
兵の配置を…
き霧が
切られた!?

風が道を作る
レフカンディを抜けるぞ!!
!

うあ
いつまでも見苦しく逃げ回るつもりですか
許さないわマルスさまを傷つけて!!
何!?

マルス王子――!!
そうか
なかなか村から
動かなかったのは
そういうことか!
儂を甘く
見たなっ
ばッ

ドカッ
お怪我は
痛みませんか
王子
平気だ
早く
将が討たれたことを
皆に伝えてくれ
敵にも
そして
伝令を
オレルアン緑条城に
おわすニーナさまに
レフカンディは
解放されたと

霧が晴れる
解放軍は聖アカネイアに入る——!
世界が開ける
我らの前に
言いたいことがあるんだ
この大地の上で話したいことがまだたくさんあるんだ——
✡第9話／谷響II✡END

AMUSE PRESS⑦
アミューズ プレス
お久しぶりです「F.E.」③です!!
ああっ 備蓄がっ
飲み足らんな～ 外行くか?
うん
不良傭兵
いやーー あまりに長い間ごぶさただったので忘れられていたりして
エクスカリバーッ
みんなでおれだけー!
心配です
それなりに似てると思われた似顔絵。
いよいよのマケドニア三兄妹登場
印象的な兄です 妹です
描きたかったんです
末妹はまだ顔見せてませんね

でも負けずに名物のそば屋に行きました!?

AMUSE PRESS号外Vol.7でもお知らせしましたがF.E.がラジオドラマになります！
放送日時放送局などこの単行本にはさみこんであるペーパーをごらん下さい♡
わーい♡
二枚組のCDも出ます!!
「黎明」と「紫嵐」がドラマ化されます
本当はこんなあたま。
キャストスタッフなど「ファンタジーDX」にて発表されてゆくと思いますのでチェックしてて下さい
聴いてねっ♡
本編も面白くなきゃいけませんがんばります!!
それではまたお会いしましょう♡
みなさんお手紙ありがとう お手紙感想大好き またくださーい♡
☆AMUSE PRESS⑦☆END

初　出

ファイアーエムブレム 特別編
1994年「ファンタジーDX」6月号掲載

ファイアーエムブレム 第6話／紋章 I
1994年「ファンタジーDX」7月号掲載

ファイアーエムブレム 第7話／紋章 II
1994年「ファンタジーDX」8月号掲載

ファイアーエムブレム 第8話／谷響 I
1995年「ファンタジーDX」3月号掲載

ファイアーエムブレム 第9話／谷響 II
1995年「ファンタジーDX」4月号掲載

AMUSE PRESS⑦
描きおろし

ファイアーエムブレム 3

あすかコミックスDX

著者――佐野真砂輝 & わたなべ京

発行者――角川歴彦

発行所――株式会社角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2-13-3
振替／00130-9-195208 電話／編集部03-3222-7966 営業部03-3238-8521

装丁――末沢瑛一

印刷――廣済堂印刷株式会社

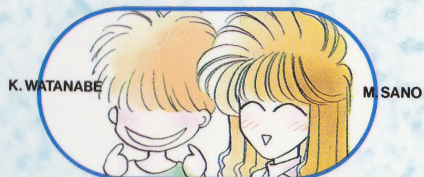
製本――廣済堂印刷株式会社

初版発行――1995年12月1日

〒354 埼玉県入間郡三芳町藤久保557-2 角川ブック・サービス

ISBN4-04-852355-4 C0979

Printed in Japan

P R O F I L E

佐　野　真　砂　輝

☆さのまさき
12月19日生まれのB型
東京都出身

わ　た　な　べ　京

☆わたなべきょう
8月16日生まれのO型
大阪府出身

デビュー作は「スプラッシャー」。

佐野真砂輝＆わたなべ京の本

あすかコミックス
トーキョー・ガーディアン 1 ～ 6

あすかコミックスDX
ファイアーエムブレム 1 ～ 3

ファイアーエムブレム外伝

9784048523554

1910979005205

ISBN4-04-852355-4　角川書店
C0979 P520E　定価520円[本体505円]

ドルーアの制するオレルアン緑条城へと進軍するアリティア軍。
マルス王子に導かれ、今、伝説の戦いが始まる——!!